

クリエイイターが超小型水処理機を開発

災害時の避難場所となる公共施設などに販売

汚水処理機や電気動力を必要としない人工水路、土

壌改良システムなど環境問

題に関する機器を開発する

(株)クリエイター(旭川市新

星町・山城等社長)が、災

害時に避難場所となる公共

施設などで利用できる超小

型水処理機を開発した。

同社は、これまで建設業

など一般企業向けの大型水

処理機を開発しリース販売

していたが、昨年、札幌市

で開催された環境展にこの

水処理機を展示するため、

デモ用の小型水処理機を製

作した。

「あくまで展示用という

ことでコンパクトな機器を

作りましたが、これが来場

者の目に留まり、災害時に

避難場所となる学校などの

公共施設に使えるのではな

いかというご意見をいただ

いた」と、同社の小谷勝三

会長は当時を振り返る。

この機器はステンレス製

で、大きさは幅40センチ、長

さ98センチ、高さ98センチ。大

人2人で運べる大きさ。超

小型とはいえ、1時間に最

大3トンの水処理ができる能

力を持ち、電力は発電機

100V、2kwで十分で、

発電機にかかる燃料代(ガ

ソリン)は1時間当たり1

リットル。

日本人は通常、飲料水も

含めた1日

に使用する

生活用水は

平均200

〜250リ

ットル

といわれ、

災害時には

100〜

150リ

ットル程

度あれば十

分といわれ

ている。こ

の水処理機

は、少なく

処理できるとしても1日で

48トの水処理ができる計算

になる。災害時、1人当た

り1日150リットルの生活用水

を使用するとすれば、約

320人分の生活用水を確

保できることになる。

「この機器で処理した水

は飲むことも可能ですが、

国の認可の問題で飲料水と

して使用することはできま

せん。日本人1人当たり1

日に必要な飲料水は3リ

ットル程

度といわれていますが、災

害時でもトイレや洗濯、風

呂などの生活用水は欠かせ

ません。そこで、当社の小

型水処理機が活躍できる場

が生まれるわけです」と、

小谷会長は自信を持つ。

価格は1台190

〜230万円で、全国の防災

施設に売込みを図る。今年

7月31日から8月2日まで

の間開催される環境展「環

境広場さっぽろ2009」

にも出品する予定で、さら

に販路を拡大できるように努

める。

さらに、同社では処理し

た水を飲用できる研究を進

めている。今年5月に同社

2階に研究所を設立し、大

学や民間企業の研究所に勤

める研究者と、同社の技術

者などで構成されたメン

バーで研究を進める。

すでに、ナノバブルと呼

ばれるナノ単位のエアで

水に付着した汚れを取り除

き、飲料水として利用でき

る研究は進んでいる。そこ

からさらに高度な水を製造

するための技術開発も行う

予定だ。小谷会長によると、

高度な水とは、「通常の飲

料水より人体に吸収しやす

い高品質の水のことで、水

質はまるやかで1人あたり

1日に必要とされる飲料水

(3リットル程度)の半分の量で

十分です」という。

125